

CA Spectrum® および CA Nimsoft

CA Spectrum - CA Nimsoft 統合ガイド

CA Spectrum リリース 9.3 / CA Nimsoft



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本CA株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。

CAの事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CAが知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係するCAソフトウェアの使用についてCAとユーザとの間で別途締結される契約または(ii) CAとユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されているCAソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただしCAのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CAに文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CAは本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CAはお客様または第三者に対し責任を負いません。CAがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者はCAです。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Spectrum®
- CA Spectrum® Southbound Gateway Toolkit (Southbound Gateway)
- CA Nimsoft

CAへの連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャについて	8
CA Nimsoft および CA Spectrum 統合	8
前の統合との共存および互換性	9
統合アーキテクチャ	10
アラーム、イベント、およびビュー	13
第 2 章: Southbound Gateway による CA Nimsoft と CA Spectrum の統合	15
前提条件および考慮事項の確認	17
CA Spectrum のインストールおよび設定	19
プローブの展開および設定	21
CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャの設定	24
Nimsoft サーバの EventAdmin モデルの作成	28
OneClick での受信されたイベントおよびアラームの確認	30
第 3 章: 統合の無効化	33
パフォーマンス考慮事項	33

第1章：はじめに

CA Nimsoft は SaaS 展開アーキテクチャを備えたシステム管理ツールです。一方、CA Spectrum はネットワークディスカバリおよび障害管理のツールです。CA Nimsoft と CA Spectrum の統合により、より包括的なインフラストラクチャ管理ソリューションを提供します。

CA Nimsoft 製品はネットワークコンポーネント、サーバ、データベース、アプリケーション、仮想環境を含む IT インフラストラクチャ内のビジネスサービスを監視し、管理するために使用されます。CA Nimsoft は展開の速度を改善し、管理を統一し、パフォーマンスとアップタイムを最大化するさまざまな機能を提供します。CA Nimsoft の主要な機能には以下のものが含まれます。

- 自動デバイスディスカバリ
- マルチベンダーデバイスサポート
- マルチテナンシー
- SaaS 展開オプション
- 一元化されたメッセージセンター
- パフォーマンスおよび可用性監視
- インテリジェントアラート
- カスタマイズ可能なパフォーマンスおよび可用性レポート
- 統合ワイヤレス
- Active Directory 統合
- ストレージ監視およびレポート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャについて \(P. 8\)](#)

[CA Nimsoft および CA Spectrum 統合 \(P. 8\)](#)

[統合アーキテクチャ \(P. 10\)](#)

[アラーム、イベント、およびビュー \(P. 13\)](#)

CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャについて

CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャは CA Nimsoft 監視のコンポーネントです。 CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャはシステム、アプリケーション、およびネットワークの監視および管理のソリューションを提供します。 CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャは CA Nimsoft システムの設定および管理のプライマリ インターフェースであり、以下の機能を指定します。

- 監視対象システムの Windows エクスプローラスタイルの概要。
- アラームおよびメッセージをすべて表示するアラーム ウィンドウ。

インフラストラクチャ マネージャは複数のハブ（アクティブ ハブやバックアップ ハブなど）に接続できます。インフラストラクチャ マネージャでは、アクティブ ハブに接続されるあらゆるロボットおよびプローブをすべて制御し、設定し、管理できます。プローブ、ロボット、およびハブはインフラストラクチャ マネージャのコンポーネントです。 詳細については、「CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャ リファレンス ガイド」を参照してください。

CA Nimsoft および CA Spectrum 統合

CA Nimsoft および CA Spectrum は CA Spectrum Southbound Gateway コンポーネント (SBGW) によって統合されます。この統合は一方向であり (CA Nimsoft から CA Spectrum へ)、1つのデバイスで複数のさまざまなタイプの目立つアラームをサポートします。

CA Spectrum と CA Nimsoft の統合により、CA Nimsoft からの情報およびアラームでインフラストラクチャの CA Spectrum モデルが拡張され、以下の利点を提供します。

- CA Spectrum で、CA Nimsoft プローブからのイベントおよびアラートを受信します。
- CA Nimsoft プローブのインテリジェンスを活用する拡張された CA Spectrum 監視機能を取得します
- Nimsoft SLA ルールを使用し、CA Spectrum でアラート条件を作成するイベントのトリガします。
- CA Spectrum 根本原因解析機能を使用し、CA Nimsoft によって作成されたイベントおよびアラートを対象に基本的な根本原因解析を実行します。

前の統合との共存および互換性

CA Nimsoft と CA Spectrum の間では複数の統合が過去に開発されています。現在の設計で別個のトラップおよび開発者 ID (イベントプレフィックス) が使用されているため、前の統合をアンインストールせずに、現在の統合をインストールできます。

そのため、現在と前の統合は共存できます。ただし、2つの統合は互いに情報を共有しません。統合は2つの個別の統合として残ります。CA Nimsoft との統合は一度に1つだけアクティブにすることをお勧めします。

統合アーキテクチャ

インフラストラクチャで問題が発生した場合、Southbound Gateway コンポーネントにより、CA Nimsoft から CA Spectrum の SpectroSERVER にアラートデータが送信されます。SpectroSERVER は CA Spectrum のプライマリサーバです。詳細については、「CA Spectrum コンセプト ガイド」を参照してください。

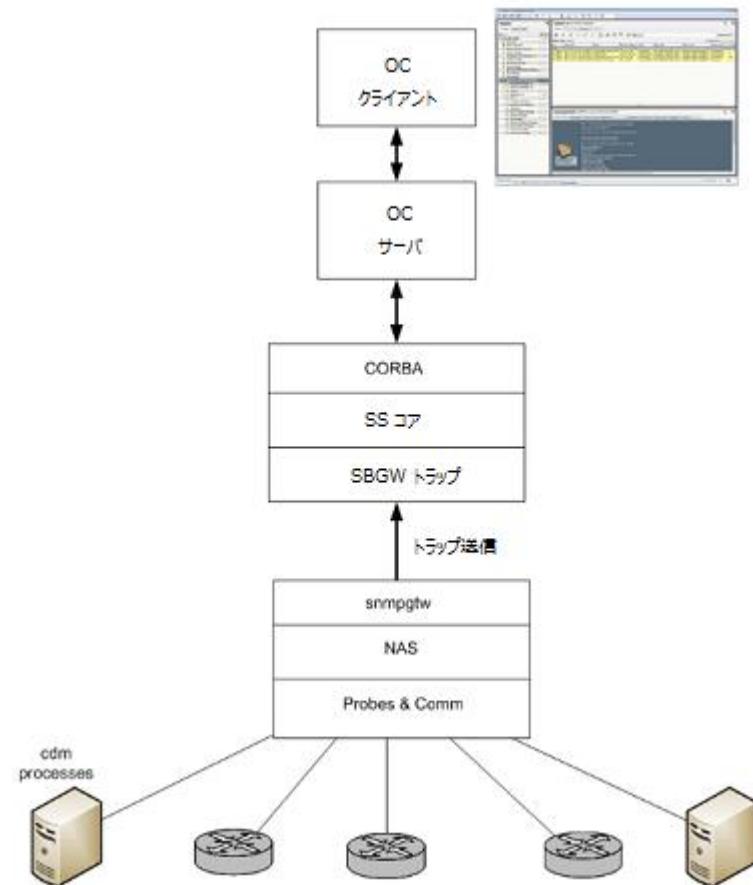
Southbound Gateway を使用すると、ネットワーク管理を一元化し、CA Spectrum でデータをキャプチャして表示することができます。必要に応じて、アラートデータが CA Spectrum のイベントおよびアラーム データに整理され、OneClick 内で表示されます。

Southbound Gateway は任意の受信アラートデータ ストリーム形式で使用できます。Southbound Gateway は、SNMP トラップを生成できるシステムのシンプルな非プログラマチック統合ポイントを提供します。非 SNMP 環境の管理にも役立ちます。Southbound Gateway は、統合しているシステムが SNMP トラップを生成できない場合に XML 形式のアラートデータを受け取るインポートツールを提供します。詳細については、「Southbound Gateway Guide」を参照してください。

Southbound Gateway がアラートデータを受信すると、データは AlertMap ファイルの CA Spectrum イベントにマップされます。Southbound Gateway は適切な EventAdmin モデルを決定し、データを送信しているホストコンピュータの IP アドレスに基づいてアラートデータを受信します。ホストコンピュータの IP アドレスは、EventAdmin モデルの作成に使用される IP アドレスに一致する必要があります。

CA Spectrum EventAdmin モデルはトラップを受信し、それを CA Spectrum イベントに変換します。イベントが重大、メジャー、またはマイナー状態に相当する場合、対応するアラートが CA Spectrum モデルで発生します。アラートが発生するモデルはいくつかの要因によって変わります。CA Spectrum で以前にモデリングされたデバイスを使用することをお勧めします。デバイス モデルが CA Spectrum に存在する場合、アラームは既存のデバイス モデルに対してアサートされます。デバイス モデルが CA Spectrum に存在しない場合、状態を報告している Nimsoft ロボットの自動作成された EventModel に対してアラームが生成されます。

以下は CA Nimsoft と CA Spectrum の統合アーキテクチャの図です。



Nimsoft プローブ

管理対象デバイスの特定のコンポーネントを管理するためのインテリジェンスを提供します。たとえば、cdm プロセス プローブは、ターゲット ホストの CPU、ディスク、およびメモリ 使用量の監視を担当します。135 個を超える CA Nimsoft プローブを利用して、サーバ、ネットワーク デバイス、アプリケーション、およびデータベースを含む、IT インフラストラクチャ全体を管理できます。

Nimsoft アラーム サーバ(NAS)

受信アラーム メッセージを受信および管理します。 Nimsoft アラーム サーバはメッセージ抑制をサポートし、イベント更新、メッセージ フィルタリング、自動アクション、およびミラーリング機能などのサービスをクライアントを提供します。

Nimsoft SNMP ゲートウェイ プローブ(snmpgtw)

Nimsoft から CA Spectrum にトラップを送信します。このプローブはアラームを任意の SNMP ベースの管理システムによって読み取り可能な SNMP トラップ メッセージに変換します。 CA Nimsoft 内部アラームをサブスクライブし、そのアラームをトラップの VarBind でエンコードされるアラームに関するすべての情報を含む SNMP トラップに変換します。

アラーム、イベント、およびビュー

CA Spectrum はコンピューティングインフラストラクチャの問題領域からアラート（通常は SNMP トラップ）を受信します。これらのアラートは OneClick に表示されるイベントおよびアラームに変換されます。CA Spectrum は一連のイベント設定ファイルを使用し、イベントとアラームの処理方法を決定します。

アラーム

アラームは、管理対象環境に存在し、ユーザが対処可能な異常状態を示すオブジェクトです。通常、アラームはイベントが発生したときに生成されます。アラームの生成は EventDisp ファイルに示されます。CA Nimsoft にアラームを引き起こした異常状態がクリアされると、CA Spectrum の対応するアラームが別のイベントによって自動的にクリアされます。

イベント

イベントは CA Spectrum 内の瞬間的な出来事を表すオブジェクトです。イベントは通常、モデルまたは他のコンポーネントに関連する重大な出来事が発生したことを示します。ほとんどのデバイス モデルタイプには EventDisp イベント設定ファイルが関連付けられています。AlertMap ファイルが SNMP トラップをイベントに変換した後、EventDisp ファイルは CA Spectrum に特定のモデルのイベントを処理方法を指示します。イベント処理にはイベントのログ記録とアラームの生成が含まれます。

ビュー

CA Spectrum のビューは表示または操作可能なデータを整理する方法の 1 つです。管理および階層ビューは CA Spectrum のビューの 2 つの主要なタイプです。管理ビューはさまざまな方法で特定の管理対象エレメントに関するデータを表すことに特化しています。階層ビューはネットワークデータの構造を表します。詳細については、「CA Spectrum コンセプト ガイド」を参照してください。

第 2 章: Southbound Gateway による CA Nimsoft と CA Spectrum の統合

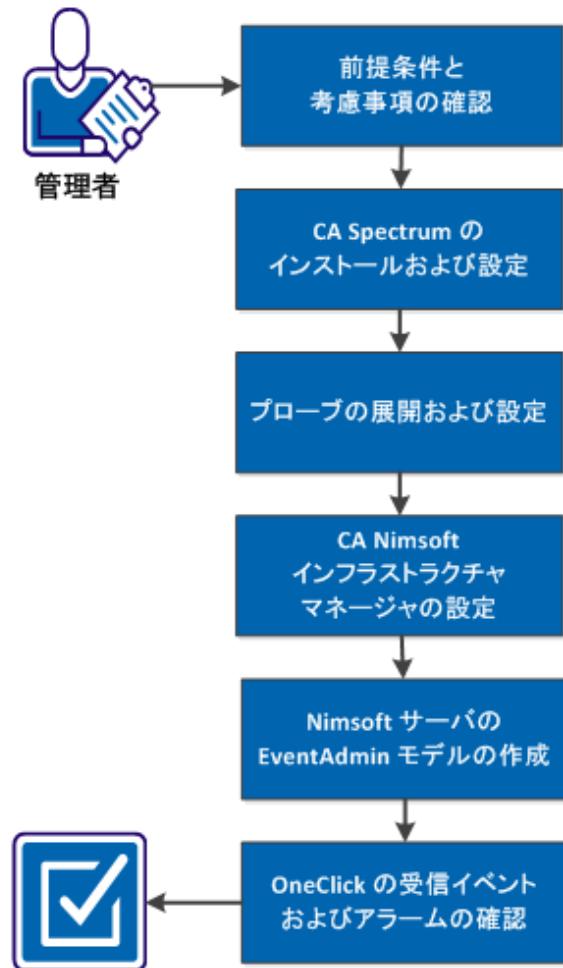
CA Spectrum と CA Nimsoft の統合は CA Spectrum Southbound Gateway コンポーネントによって実行されます。コンポーネントは、既存のデバイス モデルに対して、または CA Nimsoft ロボットの自動作成イベント モデルに対してアラームを生成します。ネットワーク エンティティの完全なデバイス モデルが CA Spectrum に存在しない場合、CA Spectrum EventModel が使用されます。この統合では、ディスク容量不足、CPU の過剰使用、およびトラフィックのしきい値違反など、1 つのモデルで複数のアラーム タイプをサポートします。

注: CA Spectrum および CA Nimsoft の統合は現在、指定されたアラームのインスタンスを 1 つだけサポートします。

管理者として、CA Spectrum にアラート データを送信するように CA Nimsoft を設定します。CA Nimsoft は、SpectroSERVER が実行されているホスト名およびポートにトラップ データを送信します。デフォルトでは、CA Spectrum は標準的な SNMP トラップ ポート 162 を使用します。ポートを変更するには、CA Spectrum ディレクトリに位置する CA Spectrum.vnmrc ファイル内の snmp_trap_port パラメータを変更します。

以下は、Southbound Gateway によって CA Nimsoft と CA Spectrum を統合するプロセスの図です。

Southbound Gateway による CA Nimsoft と CA Spectrum の統合



以下のタスクを実行し、Southbound Gateway によって CA Nimsoft と CA Spectrum を統合します。

1. [前提条件および考慮事項の確認 \(P. 17\)](#)
2. [CA Spectrum のインストールおよび設定 \(P. 19\)](#)
3. [プローブの展開および設定 \(P. 21\)](#)
4. [CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャの設定 \(P. 24\)](#)
5. [Nimsoft サーバの EventAdmin モデルの作成 \(P. 28\)](#)
6. [OneClick での受信したイベントおよびアラームの確認 \(P. 30\)](#)

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[前提条件および考慮事項の確認 \(P. 17\)](#)

[CA Spectrum のインストールおよび設定 \(P. 19\)](#)

[プローブの展開および設定 \(P. 21\)](#)

[CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャの設定 \(P. 24\)](#)

[Nimsoft サーバの EventAdmin モデルの作成 \(P. 28\)](#)

[OneClick での受信されたイベントおよびアラームの確認 \(P. 30\)](#)

前提条件および考慮事項の確認

CA Spectrum と CA Nimsoft の統合をインストールし、設定する前に以下の前提条件を確認します。

- CA Spectrum 9.3 および CA Nimsoft Management System (バージョン 6.2 以降) のライセンスされたインストールが必要です。
注: 管理者以外のユーザとして CA Spectrum をインストールする場合は、Windows の UAC (User Account Control) を無効にします。 詳細については、「CA Spectrum インストールガイド」を参照してください。
- CA Spectrum がインストールされるシステムに静的 IP アドレスが設定されていることを確認します。
- CA Spectrum をサポートする標準的なプラットフォームおよびハードウェアが必要です。

以下の考慮事項を確認します。

- 現在の統合では、以前（フィールドで開発された）の統合をアップグレードする試みは行われません。この統合の今後のバージョンへのアップグレードをサポートすることが計画されています。
- この統合では、CA Nimsoft からの通信のために CA Spectrum で SNMP トラップポート（162）を使用する必要があります。詳細については、http://docs.nimsoft.com/prodhelp/en_US/Library/index.htm?toc.htm?ServerDocsIndex.html を参照します
- この統合は単一の CA Nimsoft インスタンスにのみ接続されます。
- 典型的な SNMPv1 トラップが未確認のため、この統合はトラップ受信に依存します。トラップは通過中にドロップし、認識されない場合があります。

CA Spectrum のインストールおよび設定

CA Spectrum インストール ソフトウェアには、使用可能なリソースを評価し、カスタムインストールスクリプトを実行するための管理者権限が必要です。最初のインストールでは、所有者が管理者であるファイルが生成され、削除されずに残ります。以降のアップグレードインストールでも管理者権限が必要です。

重要: Windows プラットフォーム上の C:\Program Files\CA ディレクトリと、Linux および Solaris プラットフォーム上の /opt/CA ディレクトリは、CA Spectrum の初回インストール時に自動作成されます。また、他の CA 製品に共通の CA Spectrum コンポーネントは、このディレクトリに自動的にインストールされます。このディレクトリは、CA Spectrum アップグレード中に必要に応じて自動的に更新されます。このディレクトリからファイルを削除しないでください。

Southbound Gateway によって CA Nimsoft と CA Spectrum を統合するには、CA Spectrum インストールが必要です。CA Spectrum は、Windows、Linux、または Solaris プラットフォームにインストールできます。

次の手順に従ってください:

1. アプリケーションを実行している CA Spectrum 以外のプログラムをすべて停止します。
2. 以下のアクションを実行します。
 - [クライアント詳細] Web ページで OneClick からログオフし、OneClick クライアントをシャットダウンします。
注: 詳細については、「CA Spectrum 管理者ガイド」を参照してください。
 - CA Spectrum コントロールパネルの [SpectroSERVER の停止] をクリックして、SpectroSERVER およびアーカイブマネージャを停止し、次に CA Spectrum コントロールパネルを閉じます。
注: 詳細については、「CA Spectrum 管理者ガイド」を参照してください。
 - VnmSh 接続をすべて停止します。
注: 詳細については、「コマンドラインインターフェース ユーザガイド」を参照してください。
 - Bash シェルをすべて終了します。

重要: CA Spectrum をインストールする前に、アンチウイルス ソフトウェアのリアルタイム保護を無効にします。この機能を無効にすることで、リアルタイム保護ソフトウェアが使用している可能性があるファイルに関する潜在的な問題を回避することができます。

3. 管理者権限を持つユーザとしてログインします。
4. 適切なドライブにインストール メディアを挿入します。 autorun が無効になっている場合、[エクスプローラ] ビューで setupnt.exe ファイルをダブルクリックするとインストールを開始できます。
インストールが開始されます。
5. CA Spectrum をインストールします。 詳細については、「CA Spectrum インストール ガイド」を参照してください。

プローブの展開および設定

CA Nimsoft プローブは特定のリソースまたはイベントを監視する小さな専用アプリケーションです。各プローブは特定の監視要件に合わせて簡単に設定できます。

SNMP ゲートウェイ プローブは CA Nimsoft から CA Spectrum にトラップを送信します。CA Spectrum と CA Nimsoft を統合するには、CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャを介して SNMP ゲートウェイ プローブ (snmpgtw) を設定します。

SNMP ゲートウェイは、SNMP ベースのイベントマネージャが読み取りできる SNMP トラップ メッセージにアラームを変換します。SNMP ゲートウェイは企業固有のトラップタイプにさまざまな重大度レベルをマップします。 詳細については、

http://docs.nimsoft.com/prodhelp/en_US/Probes/GettingStarted/ を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャを開きます。
2. [Console] ウィンドウから、[Archive]、[Nimsoft Server hub]、[Robot] を選択します。
事前定義済みプローブのリストが表示されます。
3. アーカイブ フォルダのパッケージ名を選択します。
4. ドメイン/ハブ/ロボットにパッケージ名をドラッグ アンド ドロップします。
[View Distribution Progress] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 配布が完了したら、[Close Dialog] をクリックします。
指定した場所にプローブが展開されます。

6. プローブを設定するには、展開したプローブをダブルクリックします。

[Probe Configuration] ウィンドウが開きます。

7. [Setup] タブをクリックします。

[Setup] ウィンドウが開き、次のオプションが表示されます。

Active

このプローブをアクティブにするか非アクティブにします。

Subject(s)

変換される Nimsoft サブジェクトを指定します。 サブジェクトは、CA Nimsoft のすべてのコンポーネントの Nimsoft メッセージを分類するテキスト文字列です。

デフォルト : Alarm

Trap variables

トラップがトリガされる SNMP 操作の一意の識別子を示します。

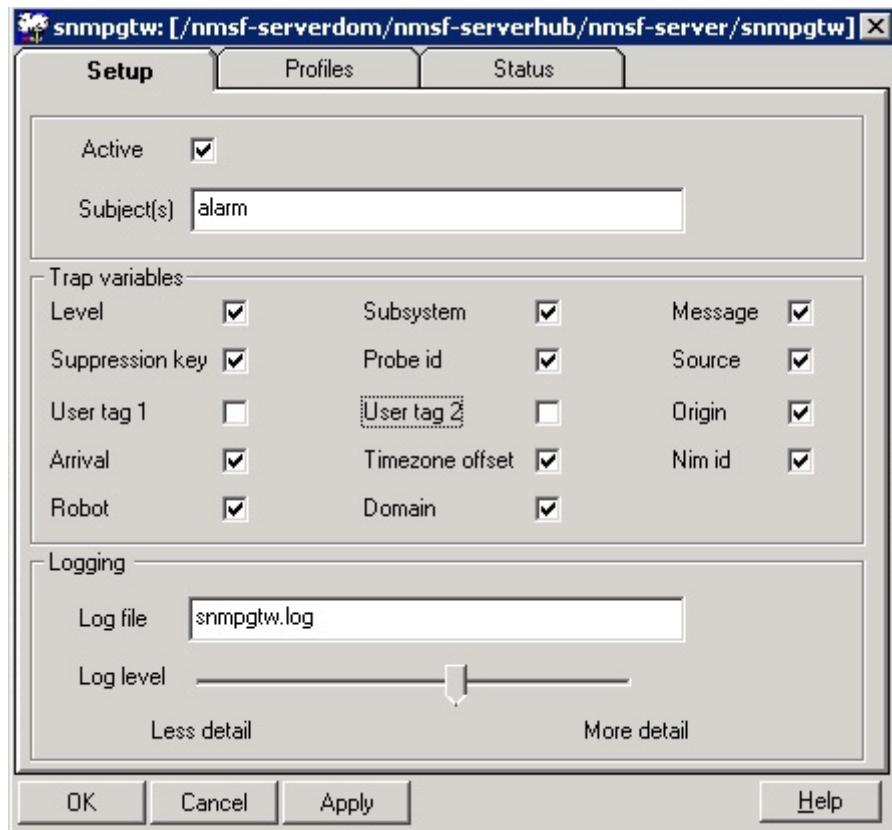
Log file

プローブ内部のアクティビティに関する情報がプローブによってログ記録されるファイルを指定します。

Log level

ログファイルに書き込まれるデータの詳細レベルを設定します。 通常動作中は、ディスク消費を最小限に抑えるために、できるだけ少ないデータをログ記録することをお勧めします。 デバッグする場合に詳細の量を増やすことができます。

以下の画面は、[Setup] ウィンドウで使用可能なオプションを示しています。



8. [Profiles] タブをクリックします。
[Profiles] ウィンドウが開きます。 詳細については、「[CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャの設定 \(P. 24\)](#)」を参照してください。
9. [OK] をクリックします。
snmpgtw プローブが展開および設定されます。

CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャの設定

CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャは、CA Nimsoft システムの設定および管理のためのプライマリ インターフェースです。

CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャまたは統合管理ポータルによってネットワーク上のエンティティを管理するように CA Nimsoft 監視を設定します。CA Spectrum と CA Nimsoft を統合するには、CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャを介して SNMP ゲートウェイ プローブ (snmpgtw) を設定します。詳細については、「[プローブの展開および設定 \(P. 21\)](#)」を参照してください。

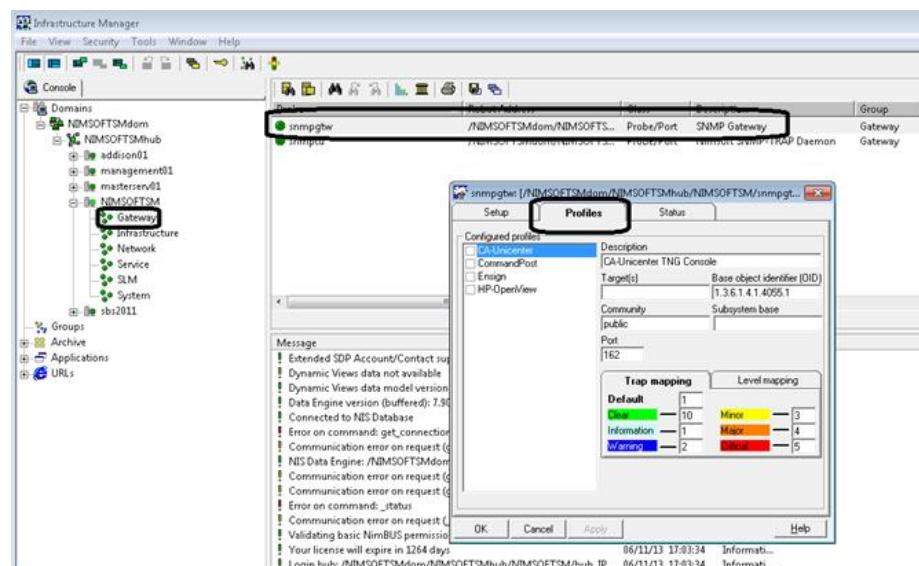
SNMP Gateway Probe では、送信するトラップ、トラップの送信条件、およびトラップの送信先について、CA Nimsoft Monitor に送信するためのプロファイルが作成されます。

次の手順に従ってください:

1. CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャを開きます。
2. [Console] ウィンドウから、[Domain]、[Nimsoft Server Domain]、[Nimsoft Server Hub]、[Nimsoft Primary Hub]、[Gateway] の順に選択します。

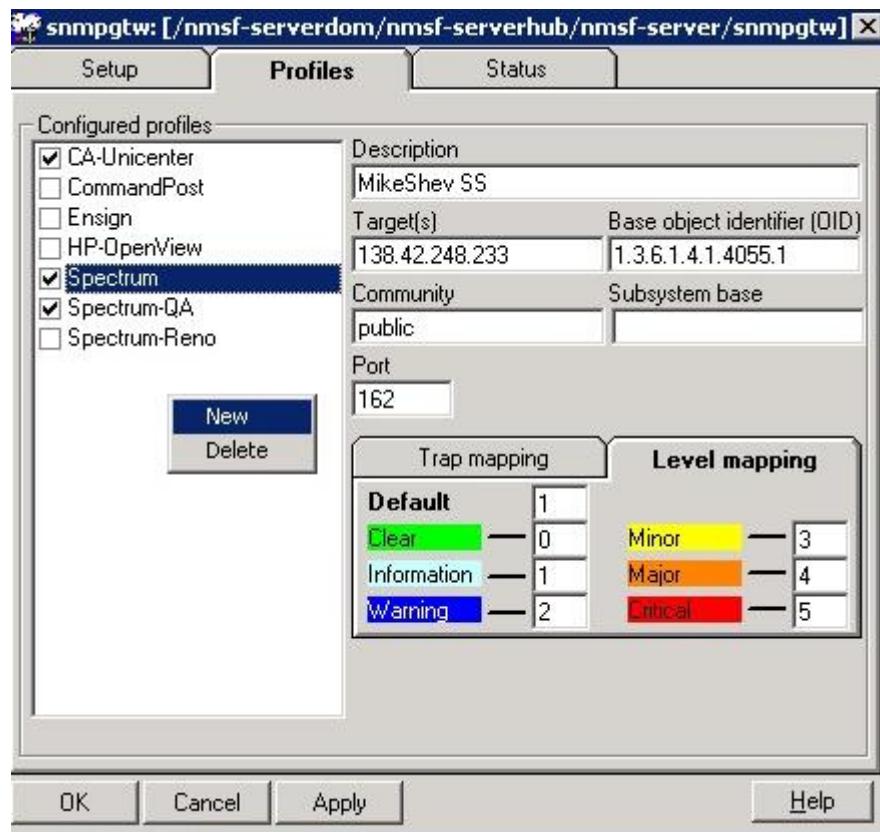
プローブのリストが表示されます。

以下のイメージでは、snmpgtw プローブへのナビゲーションを示します。



3. snmpgtw プローブをダブルクリックします。
[Probe Configuration] ウィンドウが開きます。
4. [Profiles] タブをクリックします。
5. [Configured Profiles] ワークスペースを右クリックし、[New] を選択します。

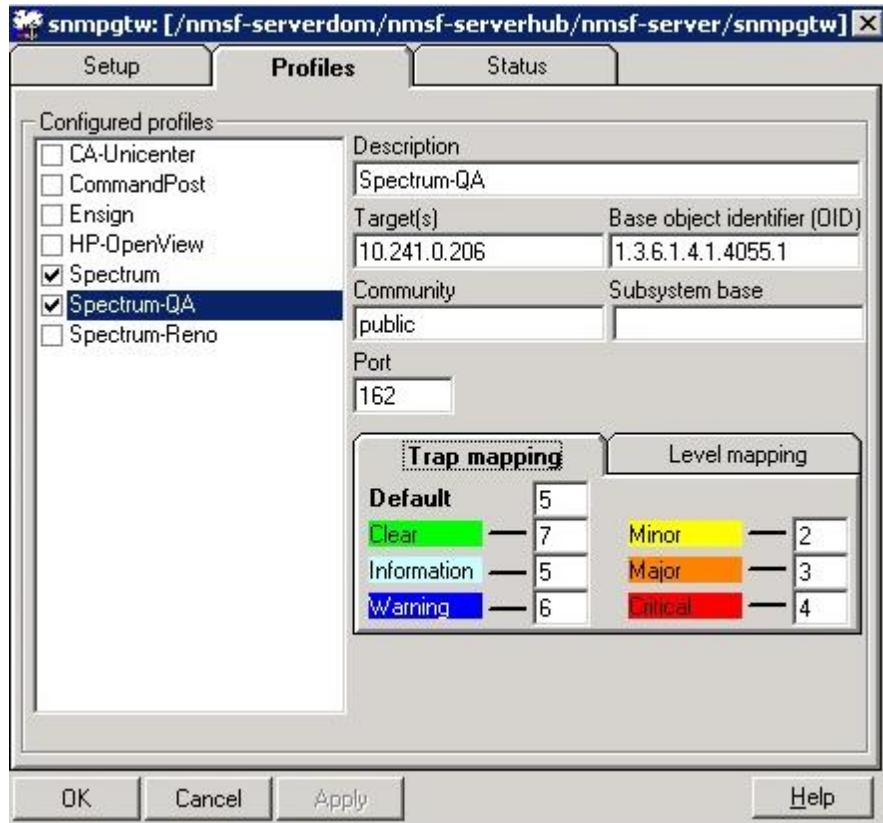
以下のイメージでは、新しいプロファイルを作成する手順を示します。



6. プロファイルの名前を入力しますたとえば、Spectrum - サーバ名を提供できます。

7. プロファイルを有効にするには、[Configured profiles] のリストで [Spectrum] をクリックします。

以下の画面は、[Profiles] ウィンドウで使用可能なオプションを示しています。



ターゲット(Target)

SpectroSERVER IP アドレスを指定します。SNMP トラップを送信できるネットワーク ノードを示します。

ベース OID(Base Object Identifier)

生成されたトラップ パッケージで使用される SNMP オブジェクト ID を示します。

デフォルト : 1.3.6.1.4.1.4055.1

コミュニティ文字列 (Community String)

SNMP トランプで使用される SNMP コミュニティ文字列を示します。

トランプ マッピング (Trap Mapping)

受信トランプをトランプ タイプ別に分類し、トランプ タイプごとに異なるアクションを実行します。SNMP トランプにアラートの重大度レベルをマップできます。

たとえば、トランプ マッピングに以下の値を指定します。

デフォルト : 5

- クリア : 7
- 情報 : 5
- 警告 : 6
- マイナー : 2
- メジャー : 3
- 重大 : 4

注: ソースレベルで情報メッセージおよび警告メッセージを無効にする場合は、[Trap Mapping] でデフォルト、警告、情報に対するマッピングを削除します。詳細については、「[パフォーマンス考慮事項 \(P. 33\)](#)」を参照してください。

レベル マッピング (Level Mapping)

異なるコードで重大度レベルを識別します。正しいコードを指定することで、受信システムの対応するレベルに Nimsoft 重大度レベルをマップできます。

たとえば、レベルマッピングに以下の値を指定します。

デフォルト : 1

- クリア : 0
- 情報 : 1
- 警告 : 2
- マイナー : 3
- メジャー : 4
- 重大 : 5

8. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

CA Nimsoft と CA Spectrum が統合するよう CA Nimsoft インフラストラクチャ マネージャが設定されました。

Nimsoft サーバの EventAdmin モデルの作成

CA Spectrum EventAdmin モデルは Southbound Gateway からイベントを受信し、統合の設定に基づいて、EventModels またはデバイス モデルにイベントデータを転送します。アラームはこのイベントデータから作成できます。

EventModel は、EventAdmin アプリケーションによって管理されるシステムでイベントデータの一意のソースを表すモデルタイプです。

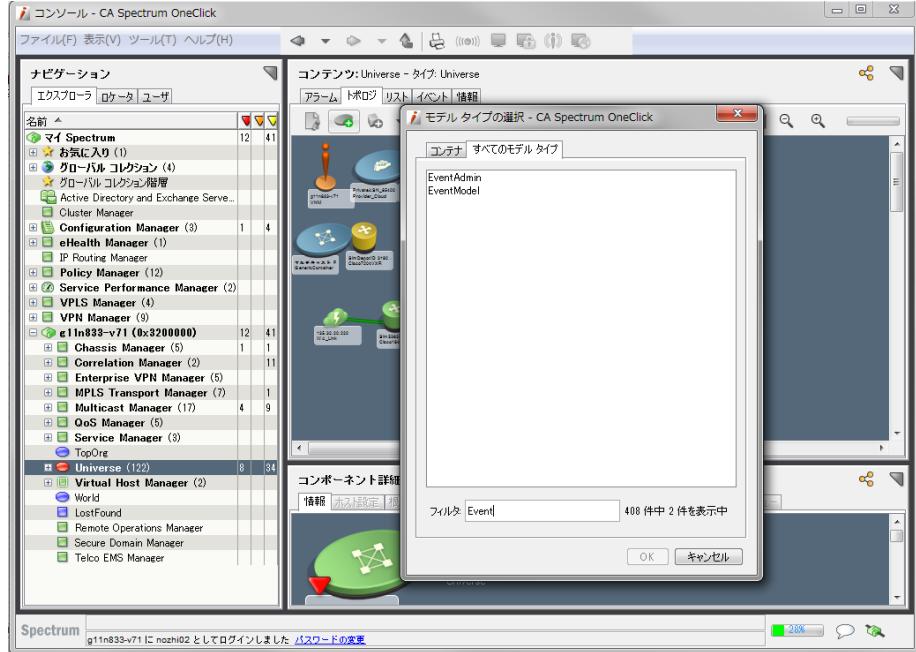
EventAdmin モデルにはインスタンス化された EventModels が 1 つまたは複数含まれます。Southbound Gateway によって受信される各イベントには、そのイベントのソースを一意に識別する情報が含まれます。

EventAdmin モデルはイベントを受信し、一意のイベントソースを見つけ、イベントをターゲット送信先へ渡します。統合をサポートするために Nimsoft サーバの EventAdmin モデルを作成します。

次の手順に従ってください:

1. CA Spectrum OneClick コンソールを開きます。
2. ナビゲーション画面で [SpectroSERVER] 、 [ユニバース] の順に選択します。
3. コンテンツ画面の [トポロジ] タブをクリックし、 [タイプ別に新しいモデルを作成] をクリックします。
[モデルタイプの選択] ダイアログボックスが表示されます。

以下の画面には、作成するモデルタイプが表示されます。



4. [すべてのモデルタイプ] タブで、 [EventAdmin] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。
[タイプ EventAdmin のモデルを作成] ダイアログボックスが表示されます。
6. 以下のパラメータを設定します。

名前

(オプション) EventAdmin モデル名を定義します。このモデル名が EventAdmin アイコンの一番上のフィールドに表示されます。

ネットワーク アドレス

イベント ソース ホスト コンピュータのネットワーク アドレスを指定します。SNMP トラップに基づくすべての統合に必要。

セキュリティ文字列

(オプション) このモデルを表示し、編集できるユーザを定義します。

マネージャ名

EventAdmin モデルでこの属性を設定すると、この EventAdmin に含まれるすべての EventModel がこの属性を継承します。

EventModel プレフィックス

特定の EventAdmin に関連付けられているすべての EventModels のネーミング プレフィックスを確認します。このフィールドは、この EventAdmin に含まれるすべての EventModel の EventModel 名に関連します。並べ替えとフィルタリングにも役立ちます。

デフォルト : 0x06330000

7. [OK] をクリックします。

EventAdmin モデルが生成されます。デフォルトの EventModel も作成され、EventAdmin モデルに含まれます。このモデルは、一意のソースを表すフォールト トレランス機能に使用されます。

OneClick での受信されたイベントおよびアラームの確認

EventAdmin モデルは CA Nimsoft からイベントを受信し、OneClick の EventModel にそれを送信します。イベントはこのモデルでアラームを生成します。統合が正しく設定されていることを確認するには、OneClick 内の [アラーム詳細] タブでアラームデータの詳細を表示することをお勧めします。一般的およびサブシステム固有のイベントが OneClick で作成されます。また、これらのイベント/アラームの設計パターンを確認できます。

次の手順に従ってください:

1. OneClick コンソールを開きます。
2. [ナビゲーション] パネルの EventModel を選択します。

3. イベントを表示するには、[コンテンツ] パネルの [イベント] タブをクリックします。

イベントは以下のイベントタイプで表示されます。

一般イベント

CPU、ディスク、およびメモリ サブシステムに関連付けられていないイベントを示します。

範囲は 0x06330000 ~ 0x6330005 から開始します。

サブシステム固有イベント

CPU、ディスク、およびメモリ サブシステムに関連付けられるイベントを示します。サブシステム固有のイベントの以下のイベント範囲を確認できます。

- CPU
0x06330050 ~ 0x6330055
- ディスク
0x06330030 ~ 0x6330035
- メモリ
0x06330040 ~ 0x6330045

4. これらのイベント/アラームの以下の設計パターンを確認します。

- 0x063300x0 クリアイベント
- 0x063300x1 マイナーアイベント/アラーム
- 0x063300x2 メジャーイベント/アラーム
- 0x063300x3 重大イベント/アラーム
- 0x063300x4 情報イベント

5. アラームを表示するには、[アラーム] タブをクリックします。

アラームが表示されます。

6. コンポーネント詳細画面の [アラーム詳細] タブをクリックして、アラーム詳細を表示します。

OneClick で生成されるイベントおよびアラームが確認されます。

注: Nimsoft Alarm コンソールでアラームを手動でクリアした場合、CA Spectrum 内の対応するアラームはクリアされません。この動作は SNMP ゲートウェイ プローブ (`snmpgtw`) の既知のイミテーションによって引き起こされます。そのため、CA Nimsoft 内でアラームをクリアしても、CA Spectrum ではアラームが累積するので、アラーム数が多くなります。CA Spectrum では、これらのアラームを手動でクリアする必要があります。

第3章：統合の無効化

OneClick のアラームおよびイベントの生成を停止する場合は、CA Nimsoft と CA Spectrum の統合を無効にできます。統合を無効にすると、EventAdmin モデルは CA Nimsoft からイベントを受信しなくなり、イベントは OneClick の EventModel モデルに転送されません。

次の手順に従ってください：

1. CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャを開きます。
2. [Console] ページで [Gateway] を選択します。
[SNMP Gateway] ウィンドウが開きます。
3. [Profiles] タブをクリックします。
[Configured Profiles] ウィンドウが表示されます。
4. [Profile] を右クリックし、[Delete] を選択します。
プロファイルが削除されます。
5. [OK] をクリックします。
統合が無効になります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[パフォーマンス考慮事項 \(P. 33\)](#)

パフォーマンス考慮事項

Southbound Gateway による CA Nimsoft と CA Spectrum の統合は、すべての重大度およびトラップ（情報、警告、マイナー、メジャー、重大、クリアなど）をサポートし、実装します。

注：デフォルトでは、CA Nimsoft snmpgtw はすべての重大度レベルのメッセージにアラート（トラップ）を送信するように設定されます。

CA Spectrum の CA Nimsoft によって生成されるイベントおよびアラームのボリュームは、管理対象エレメントの数、タイプおよび条件によって決まります。パフォーマンスが問題になる状況では、CA Nimsoft インフラストラクチャマネージャでこれらのメッセージを無効化できます。

たとえば、CA Spectrum のトラップストーム検出しきい値が一定のレベルを超える場合、パフォーマンスの低下を示します。デフォルトでは、このしきい値は単一のデバイスからの 20 トラップ/秒に設定されます。中規模の CA Nimsoft インストールでは、CA Spectrum デフォルト トラップストームしきい値を容易に超える可能性があります。超えた場合、トラップがドロップされます。最も重大なトラップを保持するために、情報および警告メッセージを無効にすることをお勧めします。無効にすれば、それほど厳しくない状況では帯域幅が使用されず、重大なトラップを CA Spectrum によって処理できます。

この状況に対処するために、CA Nimsoft によって送信される情報メッセージを無効化できます。このように、ソースレベルで問題を解決できます。トラップストームしきい値を超える場合、警告メッセージが無効であれば、CA Spectrum に送信されません。SpectroSERVER に十分な容量がある場合、トラップストームしきい値を 25 または 30 トラップ/秒に上げることもできます。

情報および警告メッセージを無効にした後でも、CA Nimsoft からのアラートの数が依然としてトラップストームしきい値を超える場合、[CA Nimsoft ドキュメント](#)を参照し、CA Spectrum に送信されているトラップの数またはタイプを制限する方法を決めます。デフォルトでは、すべてのアラームがフィルタれます。そのため、snmpgtw によってフィルタされるアラームメッセージを変更できます。また、alarm_new および alarm_clear メッセージにアラーム設定を変更し、CA Nimsoft から CA Spectrum に送信されるトラフィックの合計量を軽減できます。

注: アラーム設定を alarm_new および alarm_clear メッセージに変更した場合、受信したアラームの発生ごとに 1 つのメッセージとしてアラーム数が CA Spectrum で正しくインクリメントされない可能性があります。